

がんゲノム医療の流れ 8steps



コンピテンシー

ゲノム情報に基づいた治療を促進するため
最新の薬剤情報の知識を提供する

治療薬の選定支援

遺伝子検査結果に基づく治療の選択において、遺伝子変異と薬の選択が正しいかどうかを確認する薬剤師は、ゲノム医療において重要な職種。

治療薬の投与計画支援

特定の遺伝子変異を有する患者では、治療効果と副作用のバランスを考慮し治療に必要な薬の投与量を調節する必要があるため、最適な投与量を医師へ提案する。



あなたなら、どう支援しますか？

遺伝子検査に基づいた投薬治療が進む今後、あなたはどのように服薬指導しますか？

津島花子さん(45歳・女性・既婚)は、外科的切除不可能な卵巣癌と診断され、カルボプラチンとパクリタキセルという抗がん薬を併用した治療を受けて奏効していましたが、手足のしびれる症状が強く日常生活に支障が出てきたため、オラパリブという飲み薬による治療への変更が提案されました。花子さんには、18歳の娘さんがいます。娘さんは、インターネットでオラパリブについて調べたところ、BRCA 遺伝子という言葉が関係していると分かり、薬剤師に相談したいと考えています。あなたは、どのような情報を提供し、どのような服薬指導をおこないますか？

→ あなたの服薬指導方法を教えてください



キーワード

BRCA 遺伝子 遺伝カウンセリング
遺伝子検査 家族性腫瘍
維持療法

A・Bの遺伝子多型を有した患者さんに対して、脳塞栓症の予防目的でワルファリンを開始する場合、至適投与量の特徴として適当なものを線で繋いでください。

A. ビタミンK エポキシド還元酵素 (VKORC1) 高感受性型 (-1639G>A)

B. チトクローム P450 2C9 (CYP2C9) の変異型

A

1 必要投与量は多くなりやすい

2 一般的な常用量と変わらない

B

3 必要投与量は少なくなりやすい

キーワード

人種差
Poor Metabolizer (PM)



動画で観る
<http://urx.red/JX1b>

